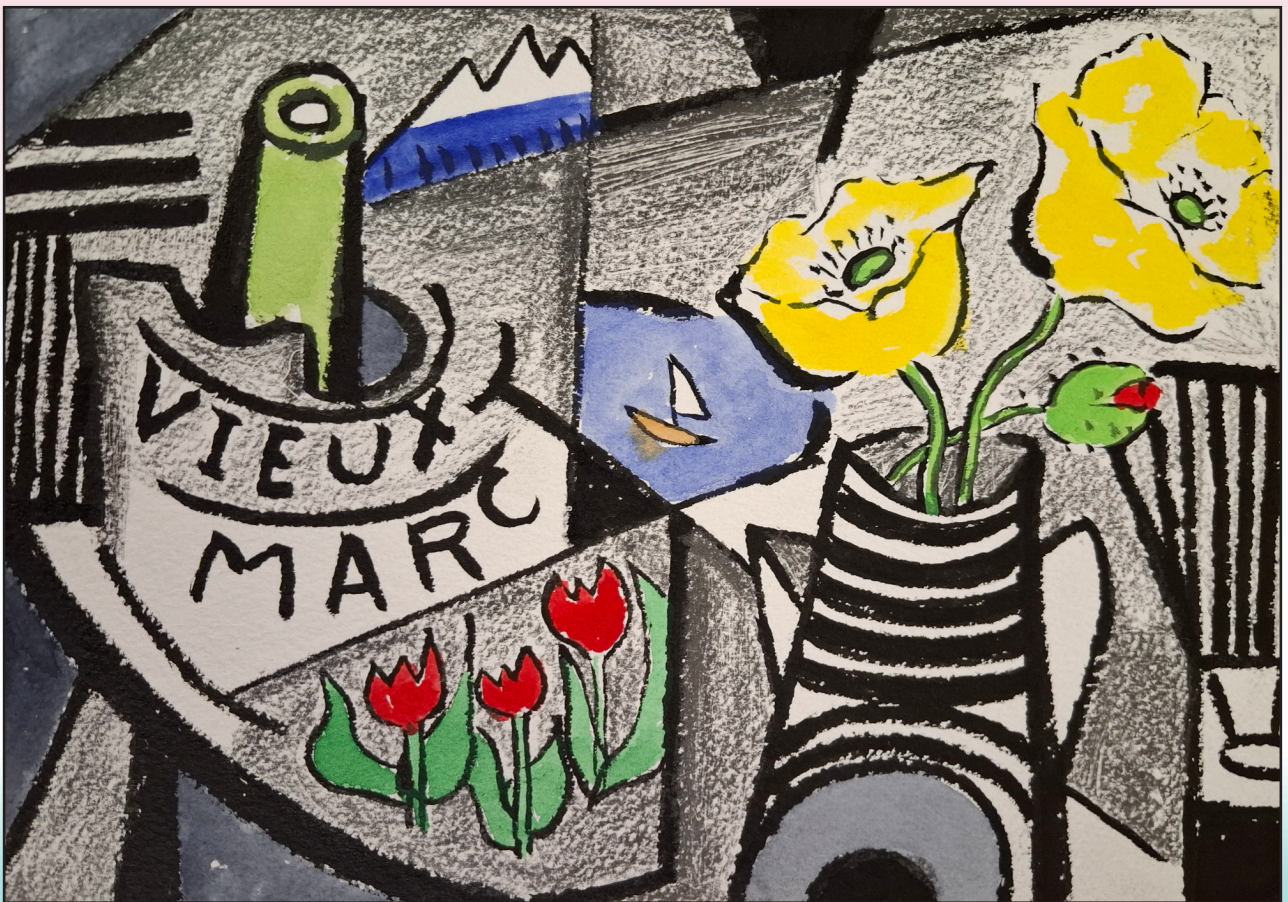


ふれんどりーたま

FRIENDLY TAMA VOL.

143

2025
春号



多摩市国際交流センター

日本語セミナー部

多摩市国際交流センターは5つの日本語のクラスがあり（多摩センター、永山、桜ヶ丘木曜午前、桜ヶ丘木曜夜、桜ヶ丘土曜）約180人の外国人が日本語を勉強しています。

日本語は間違いなく私が今まで勉強した中で最も難しい言語です。ひらがなとカタカナの文字をすべて覚えるのさえ私にとっては難しく、漢字を覚えるのはほぼ不可能に思えます。しかし、日本語で最も難しいのは敬語です。私は誰かを傷つけないように、何事においても「ていねい語」の形を学ぶことに集中しようと努めてきました。

しかし、困難にもかかわらず、私は日本語を学ぶ努力を楽しんでいます。文内の語順の理解はパズルを組み立てるようなものです。何か気に入らないときは、「納豆はちょっと…」のように、間接的に言うのが礼儀であることが興味深いです。また、いくつかの単語は面白くてかわいく大好きです。たとえば、ふわふわ、ぼろぼろ、とキラキラ。今は、私の子供たちほど上手に話せませんが、将来はもっと頑張ってレベルアップしたいと思っています。

多摩センタークラス ケイトリン スムート

日本語で難しいこと

1. 日本語に声調がなくどこにアクセントをつけて言うのかわからない。
2. 文法、助詞、敬語が難しい。勉強するほどに難しくなる。
3. 漢字も中国語と違うので、ふりがながついていないと読めない。
4. 外国語が全部カタカナでとても覚えにくい。
5. 書く場合、漢字なのか、カタカナかひらがなで書くのかわからない。
6. 拗音や促音が上手に言えない。
7. 全体的に覚えるのが大変な言葉である。

多摩センタークラス 任 麗君

私は一年ほど前からTICで、日本語を勉強しています。4年間、大学での専攻が日本語でしたので、ここでの学習は初心者ではありませんが、日本語はすべて、とてもむずかしいです。たとえば、過去形とか受け身、そして敬語です。これらは、会話のなかで直面（聴く時）すると、いつも頭の中で言葉がぐるぐる回っていて、理解するのに時間がかかります。たとえば、「ママ友」と話している時、みんなが使っている言葉が、自分には分からなくて困ることがあります。

記憶の新しいところでは「サブスク」です。あとで家に帰って確認したら、英語のサブスクリプションの略で「一定期間利用するビジネスモデル」でした。これからも、TICで日本語の理解と会話に磨きをかけてゆきます。

木曜午前クラス 柳 湘帯



節分の豆まき

日本語を学ぶときは、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの4技能を勉強する必要があると思います。その中でも、特に漢字のためのリーディングが圧倒的に難しいと感じます。ひらがなとカタカナは覚えやすかったのですが、漢字は苦労しています。画数を覚えるのが難しいだけでなく、音読みと訓読みという2つの読み方があるのです。

最近では、スマートフォンのアプリで指を使って画面上に漢字を書き、写真の中の漢字を認識してくれるものもあります。これは素晴らしい学習補助ツールです。多摩市の日本語クラスも大いに役立っています。日本語を学ぶには大きな努力が必要ですが、その分、とてもやりがいがあります。

木曜夜クラス クラッツ アントン

日本語の学習はとても面白いけれど、困ったこともあります。今回は、日本語で難しいと思う3点についてお話しします。

1. 発音です。日本語には長音がありますが、この発音を間違えると誤解されることがあります。例えば、「おばあさん」と「おばさん」、「びょういん」と「びよういん」などです。また、「ゆうめい」という単語は、「う」という長音がなければ相手には意味が伝わらないので、難しいです。
2. 敬語です。中国語では「您」（意味は「貴方」）の一文字で尊敬を表しますが、日本語には「召し上がる」や「いらっしゃる」など、いろいろな敬語表現があり、覚えるのが大変です。
3. 格助詞です。例えば、「私は学生です」と「私が学生です」は一見似ていますが、意味は少し異なります。そのため、間違えて使うと文章の意味がおかしくなるので、難しいです。それでも日本語を上手に使いたいので、TICでたくさん日本語を聞いて、たくさん話したいと思います。

永山クラス・土曜クラス 陈 少存



七夕飾り

日本語は、世界で一番難しいことばと言われています。

TICでは創立以来30年以上にわたって、市内在住の外国人の方に日本語教育を続けてきました。

現場では、毎日苦勞の連続ですが、いい交流の機会にもなっています。

各クラスの先生と、学習者の方にご苦勞の様子をうかがってみました。

ボランティア開始からやっと7か月です。果たして力になれるのかと始めた所、実際は逆に多くの事を学ばせて頂いています。ボリビア出身のKさんは在住20年以上の為、お互いを理解し易かったのは幸いでした。

厳しい仕事で苦勞して来た為に、N2合格を目標に前向きに取り組んでいます。将来はボリビア名物のお店を持つのが夢だとか。熱意に押されて私もつい力が入り、最近は冗談を飛ばして盛り上がる事も。今後も先輩方に教わり乍ら学習者のステップの一助となれるよう励みたいと思っています。

多摩センタークラス 小松 泰子



イヤーエンドパーティ

学習者の熱心さに教える立場として
気を引き締めなければ。。



ボランティアから

学習者がどのような事に関心があり、どのような事を必要としているのか、見極める事に難しさを感じています。

最近の国内外のニュースや日常のできごとを話題にすることで、できるだけ生活に即した日本語を学べるようにしています。テキストの文章を読むことで、漢字の読みや意味を確認しています。たいへん熱心に取り組んでおられるので、こちらも熱が入ります。

私は昨年5月から始めたばかりの「ひよっこ」です。日本語を楽しく学んでもらえるように、励んでいきたいと思っています。

永山クラス 川又 初恵

昨年秋、恵泉女学園大学主催の「日本語学習支援者養成講座」を履修し、現在は「日本語教室」でボランティアとして、ブラジル出身の男性と一緒に日本語を学んでいます。

彼は現在日本語学校で学んでいるため、主に会話を中心に二人で勉強しています。教える私は初心者で試行錯誤の毎日ですが、周りのボランティアの皆さんは経験豊富な方ばかりなので、いろいろと教えていただきながら、彼とともに頑張っています。先日、彼から学校の試験に合格したというメールをもらい、私もとても嬉しく思いました。

木曜午前クラス 小林 茂

現在日本語セミナーでは、スペイン、ドイツ、アメリカから来た男性3人の学習者を受け持っています。3人ともお喋りが大好きで、ツボにはまると止まらなくなります。脱線したままテキストが一向に進まずに終わってしまうこともあり、少々反省しています。

「楽しいことには力がある」が私の信条です。授業は楽しくあるべきです。様々な話題で会話が弾み、楽しい時間を共有する中に、双方に気づきや学びがあるよう心掛け、これからも頑張っていきたいと思っています。

木曜夜クラス 加藤 晃章



クラス風景

日本語を教えるとき、「楽しさ」と「学習」のバランスを取ることが難しいです。私は、学習者のニーズに応えながら楽しい活動にすることを心がけています。しかし、「楽しさ」や「ニーズ」に着目しすぎると、日本語能力の着実な向上につながらないのではないかと感じることもあり、これが現在の私の課題です。

そのため、今後は語学アプリや動画などを積極的に活用し、学習者が楽しみながら確実に日本語を身につけられるような学習支援を模索し、経験を積んでいきたいです。

土曜クラス 佐藤 愛奈

楽しそうな学習風景

5つの日本語クラスの日本語の先生方と学習者さんのコメントをお読みし、生き生きとした楽しそうな学習風景が目に見えられました。先生方は試行錯誤しながら楽しい学習支援をなさっているように思いました。一方、学習者の皆さんは、一様に日本語の難しさについてコメントをなさっているのが印象的でした。

これからも先生方と学習者さんが日本語を勉強することを通して、素晴らしい交流を続けていってほしいと思います。

理事長 秋元 美晴（日本語学者）

OPINION・의견・意見

おしゃれでつながる韓国と日本の文化交流の歩み

李 恵正(大韓民国)

最近、街を歩いていると「韓国風」のファッションやメイクをよく目にするようになりました。K-POPや韓国ドラマの影響で韓国の文化がますます身近になってきています。でも、実はこの「韓国風」の流行は、今に始まったことではなく長い歴史の中で育まれてきた韓国と日本の民間交流が背景にあります。

1. 近代における韓国の日本文化の受け入れ：韓国における日本文化の受け入れは韓国の金大中大統領（1998年～2003年）の政策が重要な役割を果たしました。金大中大統領は、日韓関係の改善と文化交流を推進することを目的として「日本大衆文化開放」の措置を施行しました。これにより、韓国では日本の映画、音楽、アニメが韓国で人気を集めるようになり、1990年代の後半から2000年代初頭にかけて、韓国国内で日本の文化が広く受け入れられる基盤を築きました。また、日本のファッション文化も韓国に影響を与え、韓国の若者文化が自国の特色を活かしつつ日本のトレンドを吸収する形で発展したのです。

2. 最近の「韓国風」トレンド：近年、韓国の「K-beauty」が世界中で大人気になり、韓国ブランドの衣服やコスメ、ファッションスタイルは日本の若者にとっても身近な存在になっています。この流行の背景にはいくつかの要因があります。

まず、韓国料理の人气が先行して広がったことが挙げられます。韓国の料理は、特に健康志向や美味しさから多くの日本人に受け入れられ、韓国の文化全体に対する興味が高まりました。このような背景の中で、K-POPの人气が爆発的に広まり、韓国の若者文化やファッションが一気に注目を集めることとなったのです。

また、LCC（格安航空会社）の普及によって、韓国と日本の距離がぐっと縮まりました。短時間で気軽に韓国を訪れることができるようになり、旅行を通じて韓国の最新トレンドやスタイルを体験する若者が増加。韓国のファッションやメイクが直接日本の若者たちの間で流行し、韓国風のトレンドが浸透していきました。

さらに、シンプルで洗練された韓国風スタイルはトレンドを取り入れつつも自分らしさを大切にすることであるため、現代の日本の若者文化にもぴったりマッチしています。

3. 友好な文化交流の未来：お互いの文化が影響を与え合い、今後もさらに深化していくことが予想されます。韓国と日本は、今も変わらず密接なつながりを持ちながら新しい時代の「友好な交流」を築いていくことになるでしょう。どんどん進化していく「韓国風」トレンド、そして日本の文化との融合、これからもチェックしていきたいです！



Steps of Cultural Exchange between Korea and Japan through Fashionable Connection

LEE Hyejeong (Republic of Korea)

LEE Hyejeong (Republic of Korea)Recently, while walking around the city, various "Korean-style" fashion, makeup, and shoes have come quite visible. By virtue of the influence of K-POP and Korean dramas, Korean culture has become increasingly familiar. However, this "Korean-style" popularity is not something that has just started; but has roots in the long history of civic cultural exchange between Japan and Korea.

1. Acceptance of Japanese culture in modern Korea: As for the acceptance of Japanese culture in Korea, the policies of President Kim Dae-jung (金大中大統領1998-2003) played an important role. President Kim Dae-jung implemented measures for "Opening Korea to Japanese popular culture" which aimed at improving Japan-Korea relations and promoting cultural exchange. As a result, Japanese films, music, and anime became popular in Korea, establishing a foundation for the widespread acceptance of Japanese culture in Korea from the late 1990s to the early 2000s. Furthermore, Japanese fashion culture also influenced Korea. But Korean youth culture has developed by rather digesting Japanese trends than simply imitating, and by utilizing its own country characteristics.

2. Recent "Korean-style" trends: In recent years, Korean fashion and makeup have become extremely popular worldwide. Clothing and cosmetics from Korean brands have become very familiar to Japanese youth. There are several factors behind this trend.

First, the spread of Korean cuisine popularity can be named as a front runner. Korean food has been embraced by many Japanese people, particularly for its health benefits and deliciousness, which has enhanced interest in Korean culture as a whole. In this background, the popularity of K-POP exploded, and drew attention to Korean youth culture and fashion all at once.

Additionally, the spread of LCCs (low-cost carriers) has significantly shortened the distance between Korea and Japan. Young people can now easily visit Korea in a short time, which brought an increase of those having experienced the latest trends and styles in Korea through the travel.

Furthermore, the reason why Korean fashion and makeup are gaining attention is that their simple and sophisticated style, along with a culture that values individuality while incorporating trends, perfectly matches the contemporary youth culture in Japan.

3. The future of friendly cultural exchange: It is expected that both countries' culture will continue to influence each other and will deepen further. Japan and South Korea will continue to build a new era of "friendly exchange" in maintaining the close relationship. Please let's keep an eye on the evolving "Korean-style" trends and the influence of Japanese culture!

私の好きな本

MY FAVORITE BOOKS

「Faith of the Fallen」(Terry Goodkind)

Brandon M Lindsay (USA)

Some books change the way you see the world. For me, Faith of the Fallen by Terry Goodkind is one of those rare books. It didn't just make me love fantasy. It ignited within me a passion for the craft of writing. Before discovering Goodkind's work, I was drawn to science fiction, with its stories of our future and the technology that makes it possible. But Faith of the Fallen, and the whole Sword of Truth series of which it is a part, showed me that a great story isn't just about the setting—it's about people, the struggles they endure, and the strength they find within themselves.

Faith of the Fallen follows the story of Richard, a woods guide-turned-emperor, who is captured and forced into a brutal existence under the totalitarian rule of the Imperial Order. He must do so to save the life of his wife—the woman who gives his life meaning—and whom he must leave behind forever. Instead of succumbing to despair, he uses his spirit, intelligence, and creativity to defy his captors in the most unexpected way—through his art. Reading about Richard carving a magnificent statue, pouring his soul into something that symbolizes hope and human potential, was one of the most moving things I'd ever read. It is a story that demonstrates the difference between mere survival and truly living, and it shows that the human spirit can never be truly broken. Despite his horrible situation, Richard's relentless perseverance inspires not only his friends, but even his enemies. Their inability to defeat his spirit is what eventually leads him to victory and success.

Reading Faith of the Fallen changed everything for me. It was the first step down a path I had never envisioned walking down before. It made me care more deeply about storytelling—not just about crafting interesting plots and fascinating characters, but about exploring what makes us fight, dream, and endure. It's the book that inspired me to become a writer myself, to build worlds and characters that reflect the same powerful themes. Although I know I'll never write anything as great as Faith of the Fallen, Richard's story inspires me to keep improving my craft. Even now, after reading the series four times, I return to Goodkind's work whenever I need a reminder of why I fell in love with storytelling in the first place. If there's one book that proves the power of the human spirit, it's this one.



This is my fantasy novel, inspired by the works of Terry Goodkind. グッドカインドに刺激を受けた、私の小説です

「Faith of the Fallen」

(テリー・グッドカインド)

リンゼイ ブランドン (U.S.A)

本の中には、世界の見方を変えるものがあります。私にとって、テリー・グッドカインドの「Faith of the Fallen」は、そのような稀有な本のひとつです。この本は、私をファンタジー好きにし、執筆という仕事への情熱に火をつけてくれました。グッドカインドの本に出会う前は、未来とそれを可能にする技術を描いたSFに惹かれていました。しかし、「Faith of the Fallen」と、一連の「Sword of Truth」シリーズは、舞台設定が素晴らしいだけでなく、人々の苦難、人々が自分自身の中に見出す強さについて教えてくれる素晴らしい物語なのです。

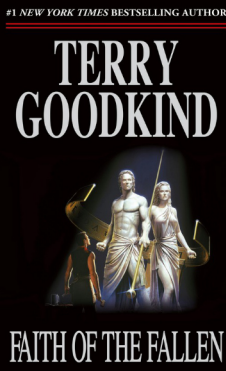
Faith of the Fallen は、森のガイドから皇帝になったリチャードの物語です。リチャードは捕らえられ、帝国主義の支配下で残酷な生活を強いられます。リチャードは、自分の人生に意味を与えてくれた妻の命を救い、永遠に生きてもらうために、従わなければなりません。絶望に屈する代わりに、リチャードは精神、知性、創造力を使って、最も予想外の方法—芸術を通じて捕虜に反抗します。

希望と人間の可能性を象徴するものに魂を注ぎ込み、壮大な彫像を彫るリチャードの本を読むのは、これまでの中で最も感動的なものでした。単なる生存と真に生きることの違いを示す物語であり、人間の精神は決して真の意味で壊れることはないことを示しています。ひどい状況にもかかわらず、リチャードの絶え間ない忍耐は、友人たちだけでなく敵さえも鼓舞します。彼の精神を打ち負かすことのできない敵は、ついに彼を勝利と成功へと導きました。

この本を読んだことで、すべてが変わりました。それは、これまで想像もしなかった道への第一歩でした。この本によって、ストーリーテリングについてより深く考えるようになりました。興味深いプロットや魅力的なキャラクターを作り上げることだけでなく、私たちが戦い、夢見て、耐える理由を探ることです。この本は、私が作家になり、同じ強力なテーマを反映した世界とキャラクターを作り上げたいと思ったきっかけです。Faith of the Fallen のような偉大な作品を書けないだろうと思いつつも、リチャードの物語は、自分の技術を磨き続けるよう私を鼓舞してくれます。シリーズを4回読んだ今でも、そもそもなぜストーリーテリングに夢中になったのかを思い出したいときは、グッドカインドの作品に戻ります。人間の精神の力を証明する本が1冊あるとしたら、それはこの本です。



This was my first time wearing a hakama, which was quite fun. 初めての袴姿。とても楽しかったです



主題になった本

賛助会員の紹介

恵泉女学園大学 日本語教育の歩みと地域への貢献

恵泉女学園大学日本語日本文化学科
助教 志賀 里美

恵泉女学園大学の日本語教育は、日本語教育を通じて多くの留学生と未来の日本語教師を支援し、地域との交流を深めてきました。特に、多摩市国際交流センター（TIC）との連携は長年にわたり続いており、本学が地域の日本語学習支援に関わる契機ともなりました。

本学の日本語教員養成課程は1995年に発足し、2025年で31年目を迎えます。これまでに国内外で活躍する多くの修了生を輩出し、教育の現場で貢献しています。本課程の特色は、知識の習得にとどまらず、実践的な指導力を養う点にあります。最後は国内の日本語学校での2週間の教育実習に加え、希望者には海外の大学での実習機会も提供し、即戦力となる教師の育成に努めています。大学では珍しくこのような実習を提供できるのは、実習先に本学の卒業生が多くいることも大きな要因です。

また、夏には協定校の留学生を迎えるサマープログラムを実施しており、本学卒業生が教師として授業を担当します。恵泉の学生も授業に参加し、指導法を学ぶ機会を得るとともに、日本語学習者との交流を通じて実践的な指導力を養っています。そして、ここでの教え方を評価していただき、海外の大学から招聘され、海外の大学で講師として活躍する卒業生も誕生しています。

また、地域社会とのつながりを大切にしたプログラムも実施しています。それが、2021年から始まった「恵泉女学園大学・多摩市国際交流センター連携 日本語学習支援者講座」（2025年度も開講予定）です。近年、日本で生活する外国人が増加し、地域における日本語教育の重要性が高まる中、TICの日本語教室では支援者の不足が課題となっていました。この講座は、学生や留学生、TIC会員、社会人などバラエティーに富んだ参加者とともに学ぶ新しい形態となっており、実際の日本語教室の見学や、学習者および日本語学習支援者との交流を通じたOJT（On-the-Job Training）を取り入れ、実践的な学びの場となっています。この講座を修了した方々の中には、TICの日本語教室で支援者として活動をしている方もいます。

恵泉女学園大学が多摩市からなくなっても、これまで築かれてきた学びの成果や、地域社会とのつながりは決して消えるものではありません。今回、このように本学の歩みを振り返ることは、単に過去を懐かしむだけでなく、これからの日本語教育や地域との関わりを考える大切な機会になると思っています。これからもその経験を活かし、それぞれの場で活躍し続けることを願っています。



日本語学習支援者グループワークの様子



サマープログラムの様子

Keisen University: The Progress of Japanese Language
Education and Contributions to the Community



Satomi Shiga (Department of Japanese Language and
Culture, Keisen University.)

Keisen University's Japanese language education has supported many international students and future Japanese language teachers and has deepened exchanges with the community. In particular, the collaboration with TIC has continued for many years and has prompted the University be involved in Japanese language learning support in the area.

Our university's Japanese teacher training program was established in 1995 and will celebrate its 31st year in 2025. It has produced many graduates who are active both domestically and internationally and contributes to the field of education. The program's distinctive feature lies in its focus not only on acquiring knowledge but also on developing practical teaching skills. In addition to a two-week teaching practice at domestic Japanese language schools, we also offer opportunities for those who wish to participate in internships at universities abroad, and strive to nurture teachers who can be immediate assets. A significant factor that allows us to provide such internships, which are rare at other universities, is the presence of our many alumni at the internship sites.

We also provide a summer program that welcomes international students from partner universities. Our graduates teach at the summer classes. Students from Keisen also participate in the classes. There also have come out such graduates, who have been invited by overseas universities and are active as lecturers at those institutions by virtue of high evaluation for their teaching methods here.

Furthermore, we are implementing programs that value connections with the local community. This includes the "Keisen University and TIC Collaborative Japanese Language Learning Supporter Course," which started in 2021 and is scheduled to continue in 2025. In recent years, the number of foreigners living in Japan has increased, which has risen the importance of Japanese language education in the community, where TIC's Japanese language classes have to meet the challenges of shortage of learning supporters. This course is formatted anew to learn with a diverse range of participants such as students, international students, TIC members, society members etc., incorporates on-the-job training (OJT) . Among those who have completed this course, some are now active as supporters in TIC's Japanese language classes.

Even if Keisen University goes out of Tama City, the accomplishments by the learning built up until now and the connections with the local community will never disappear. I believe that reflecting on the history of our university in this way is not just a nostalgic look back at the past, but an important opportunity to think about the future of Japanese language education and our relationship with the community. I hope that we will continue to make full use of those experiences and remain active in our respective working fields.

日本人の旅行記

JAPANESE PERSPECTIVES ON LIFE ABROAD

エジプト滞在記

大庭 正祐（日本語セミナー部）

エジプトの一日はアザーンで始まります。アザーンとはイスラム教の礼拝への呼び掛けのことで、キリスト教の鐘と同じような役割をし、お祈りの言葉を4度繰り返すことから始まるそうです。数十年前の赴任当初は早朝からうるさいと思っていましたが、不思議なことにだんだん心地よい気分になりました。

イスラムというと特殊なイメージを持つかもしれませんが。エジプトにはインシャッラー（神のみぞ知る）という言葉があります。ビジネスなどで契約や約束をする際に必ず「インシャッラー」と言いますが、それは「お互いにいい結果になるように」という願いを込めた言葉です。また、他人に対しても寛大であるので、救われる場面も多々ありました。例えば、道を尋ねた時などは人が集まってきますが、自分は知らなくとも他人が困っていたなら何とか役に立ちたいという親切心（結果的には間違っていることもあります）はエジプト人特有の国民性だと感じました。

エジプトは年に3日ほどしか雨が振りませんが、代わりに砂嵐が降ることがあります。そのため、「車のワイパーは砂のために使う」というジョークがあるくらいです。家族で外出中に100年に一度と言われる凄い砂嵐に出会いました。空がいきなりオレンジ色に染まり、目も開けられず息ができない状態になったので、慌てて近くの建物に避難しました。翌日の新聞に「この世の終わり」と記載されていました。

また食料調達では、日本で簡単に手に入るような食材がスーパーでは入手できず、特別ルートで入手していました。ただし幸いなことに、お米はJICAの指導の下、新米のササニシキと同程度の美味しいお米が1キロ70円程で手に入りましたので大変助かりました。長期休暇の際に、日本やヨーロッパで蓋が閉まらないほどの食料品をトラックに詰めて帰ったのは今でも懐かしいです。

その他に、エジプトならではの体験もたくさんしました。例えば、ピラミッドを周回する「ピラミッドマラソン」、古代エジプト文明に触れられる「パピルス作り体験」など、非常に興味深いものばかりでした。

エジプトにはカイロのピラミッドやスフィンクス、ルクソールの王家の墓、アブシンベル宮殿等、観光地が数え切れないほどありますが、お勧めはシナイ山とシャルムエルシェイクです。シナイ山はモーゼの十戒の地と言われており、初日の出を見るためにラクダで登ったのですが、草木がない岩山で本当に神がいるのではと思うほど神聖な気分になりました。また、シャルムエルシェイクはヨーロッパ人に人気のリゾート地ですが、エジプト国内にもかかわらず、パスポートが必要となる特別な場所です。海洋学者のクストーによると、同地には川がなく何も流れ込まないので世界一美しい海であるそうです。エジプトに行ったらぜひ訪問してほしいです。



クフ王のピラミッド



Egypt Sojourn record

Masahiro Oba (Japanese Seminar)

A day in Egypt begins with the Adhan. The adhan is a call to Islamic prayer, serving a similar role to church bells in Christianity. I heard that it starts with the repetition of the prayer words four times. A few decades ago, at the time I came Egypt first time, I felt it so noisy in the early morning, but oddly, I gradually began to feel comfortable with it.

Islam might give you a special image. In Egypt there is a word called Inshallah (meaning God only knows). When we make a contract or promise in business, we always say "inshallah," which is a word that expresses the hope "the results will be good for each other." Also, the Egyptians are generally generous to others, which have brought many situations bearable. For example, when I asked for directions, people would gather, and I felt that the kindness to help others in trouble even if the area is not so familiar (the direction sometimes turned out wrong in the end) is a national trait unique to Egyptians.

In Egypt, it rains only about three days a year. Instead, sandstorms sometime assault. That's why there's a joke that says, "Wipers are used for sand." My family encountered an incredible sandstorm, which was said to happen once every hundred years, while we were out. The sky suddenly turned orange, and we couldn't open our eyes or breathe. We hurriedly took shelter in a nearby building. The next day's newspaper reported it as "the end of the world."

As for food procurement, some ingredients easily available in Japan could not be obtained at the local supermarket and had to be sourced through the special channels. However, fortunately, under the guidance of JICA, we were able to get delicious rice comparable to the new crop Sasanishiki for about 70 yen per kilogram, which was a great help. I still nostalgically remember that we packed so many foodstuffs in our trunks that the lids wouldn't close and brought them back to Egypt at the time of long vacations in Japan or Europe. Furthermore, I had many unique experiences in Egypt. For example, the "Pyramid Marathon" that circles the pyramids and the "Papyrus Making Experience" that allows you to touch on the ancient Egyptian civilization. Such activities were all deeply interesting.

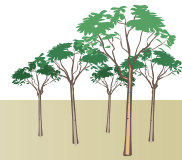
Egypt has countless tourist attractions such as the Pyramids and the Sphinx in Cairo, the royal tombs in Luxor, and the Abu Simbel temple, but I recommend Mount Sinai and Sharm El Sheikh. Mount Sinai is said to be the land of Moses' Ten Commandments, and I climbed it on a camel-ride to see the first sunrise, and was impressed so much that I felt sacred on the treeless rocky mountains and almost believed God was there. Sharm El Sheikh is a popular resort for Europeans, but it is a special place where a passport is required even if it is inside of Egypt. According to oceanographer Cousteau, there is no river, therefore no inflow in the area, which brings the most beautiful sea in the world. I highly recommend visiting these places if you have a chance to go to Egypt.



ナイル川の河口



うで グラフ・TICの動き TIC activities by photos



国際理解講座
インドネシア:9月29日



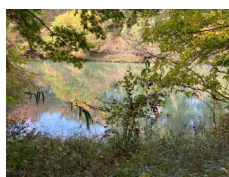
日本語初心者クラス:10月1日



文化祭 スピーチ大会、
世界の地図展:10月20日



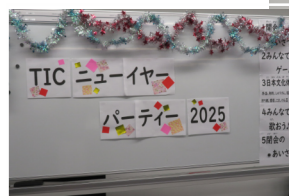
立川防災館:11月4日



秋の散策、長池公園:
11月4日



イヤーエンドパーティ:12月8日



ニューイヤーパーティ:
2月11日

編集後記

今月号の特集は一つの言語に3種類の表記がある「日本語」を勉強している外国人の奮闘コメントです。ひらがなはともかく漢字になると、皆さんのため息が聞こえてきそうです。反面話すことは、楽しみながら覚えられられるかもしれません。世界の言語の数は7,000以上とか。「バベルの塔」を建てすぎて、神様を怒らせちゃったのでしょうか。

Editor's Note

This issue's feature is about the struggles of foreigners studying Japanese, a language with three different writing systems. While hiragana may not be too difficult, when it comes to kanji, I can almost hear the sighs of everyone. On the other hand, learning to speak the language can be a quite enjoyable process. There are over 7,000 languages in the world. Perhaps we built too many 'Towers of Babel' and angered God?

多摩市国際交流センター
〒206-0011 東京都多摩市関戸4-72
ヴィータ・コミュニネ7階 TEL 042-355-2118
FAX 042-355-2104

発行: 広報部 代表 最上 勉
編集 竹内 佳代子
翻訳 熊谷 弘

2025年3月10日発行

* 当会報へのご意見ご希望をお寄せ下さい。
* また、当会報は、別紙でハングル版と中国語版が、用意されています。ご希望の方は、上記までご連絡下さい。お送りします。

表紙: 「Primavera (春)」 大島道夫

Tama City International Center (TIC)

We look forward to any comments, suggestions and topics. This newsletter is also translated into Korean and Chinese and is available upon request.

Please contact us at the following address:

7F VITA Commune
4-72 Sekido, Tama City, Tokyo, 206-0011
Tel: 042-355-2118 Fax: 042-355-2104

E-mail: tic@kdn.biglobe.ne.jp
URL: <https://www.tic-tama.jp>

Published by: Public Relations Division
Representative: Tsutomu Mogami
Editor: Kayoko Takeuchi
Translations: Hirosh Kumagai

Issued March 10, 2025

